

やるしかない行政の効率化

行財政改革特別委員会

議会内に行財政改革委員会の設置熱望

平成8年6月、柴田町行財政改革推進本部が設置された。その理由は、景気回復の遅れ、町税や地方交付税などの歳入の伸び悩み、さらに、地方分権時代にふさわしい簡素で効率的な行財政システムの確立、そして、新たな行政需要に耐えられる町づくりに、行政自ら率先して取り組む必要からであった。平成9年から平成13年の5カ年計画の「柴田町行財政改革大綱」の諮問を受けた。実行機関として助役を委員長に課長補佐以上で「柴田町行財政改革検討委員会」を立ち上げた。

平成14年5月、大綱に基づく実施計画の達成度が発表された。改革100項目の内、完了50%、継続実施25%、対応中7%、未対応18%。完了したものの、中身は残念ながら期待された当初の目的を達成したものとは言えなかった。

委員会は今までどんな事をやって来たのか

昨年の12月定例会で議員提案により全員一致で議会内に7名の行財政改革特別委員会の設置をみた。期間は今年の11月30日までで、12月定例会に議会から柴田町長へ提言することになった。第1回委員会で委員長に佐藤輝雄、副委員長に舟山邦夫が選任された。委員会の基本は議会として不満だった「柴田町行財政改革大綱」を下敷きとして、町民の目線で精査・検討を加えるとした。さらに、できるだけ結果を数字で出すこととした。委員会の方向づけを決めた後、具体的な作業に入って行った。これ

- 6月 福祉課、槻木事務所、農政課の審査
- 5月 企画調整課、税務課の審査及び議会議事のまとめ
- 4月 社会教育課、教育総務課、会計課の審査
- 3月 監査委員事務局の審査
- 2月 改革ヒアリングのまとめ、古川市議会行政視察、議会及び議会事務局の審査
- 1月 各課長等からの改革ヒアリング
- （これまでの経過）
- までの委員会開催は23回に及んでいる。



委員会メンバー

- 写真(右から)
- 加藤 徳 廣 委員
 - 舟山 邦夫 副委員長
 - 佐藤 輝雄 委員長
 - 佐藤 賢一 委員
 - 杉本 五郎 委員
 - 加茂 力男 委員